

トラック輸送情報（平成18年10月分）

平成19年1月15日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：浅見、安達 内線28315

直通：03-5253-8344

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

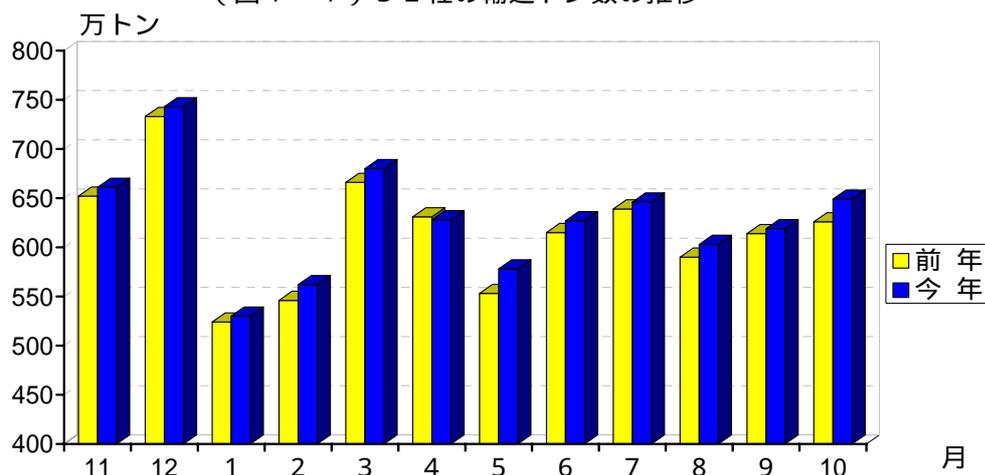
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,494,711トンで、前月と比べ、総輸送量が約31万トン増加したため、前月比104.9%（季節調整済み101.5%）前年同月と比べ、約23万トン増加したため、前年同月比103.7%の実績であった。

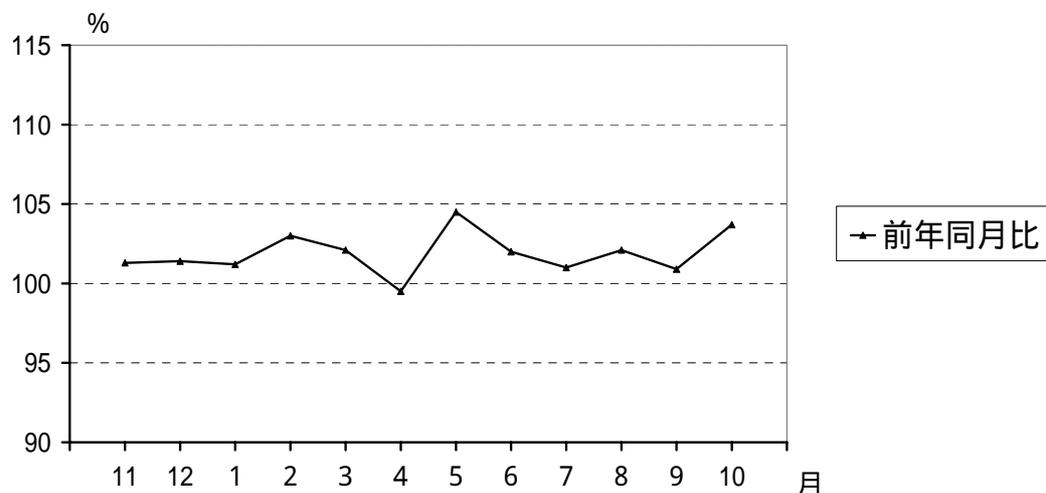
なお、平均稼働日数は24.5日で、前月と比べ0.9日の増加、前年同月と比べ0.2日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、265,090トンで、前月と比べ、約3千トン増加したため、前月比101.1%、前年同月と比べ、約7千トン増加したため、前年同月比102.9%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

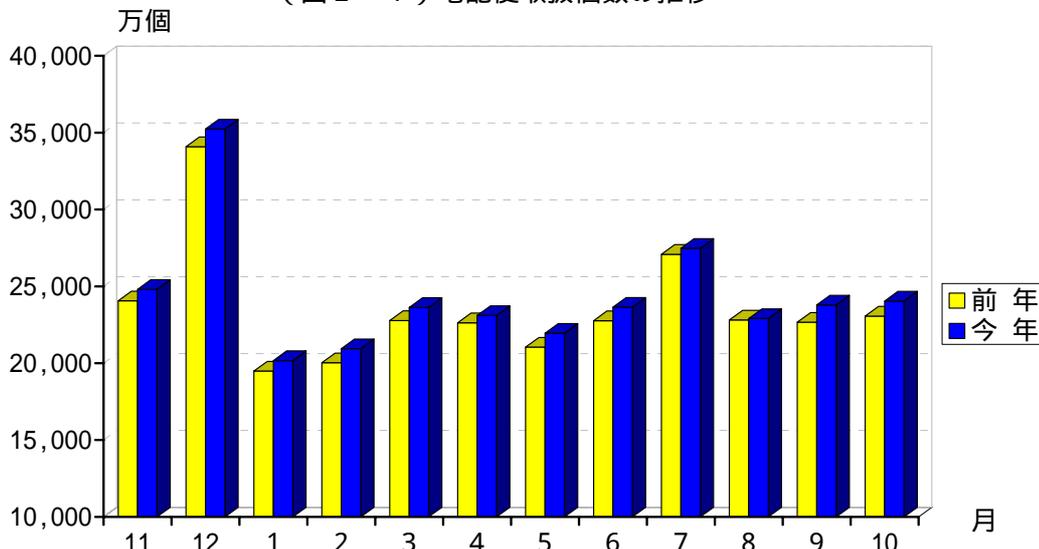


(2) 宅配便の概況

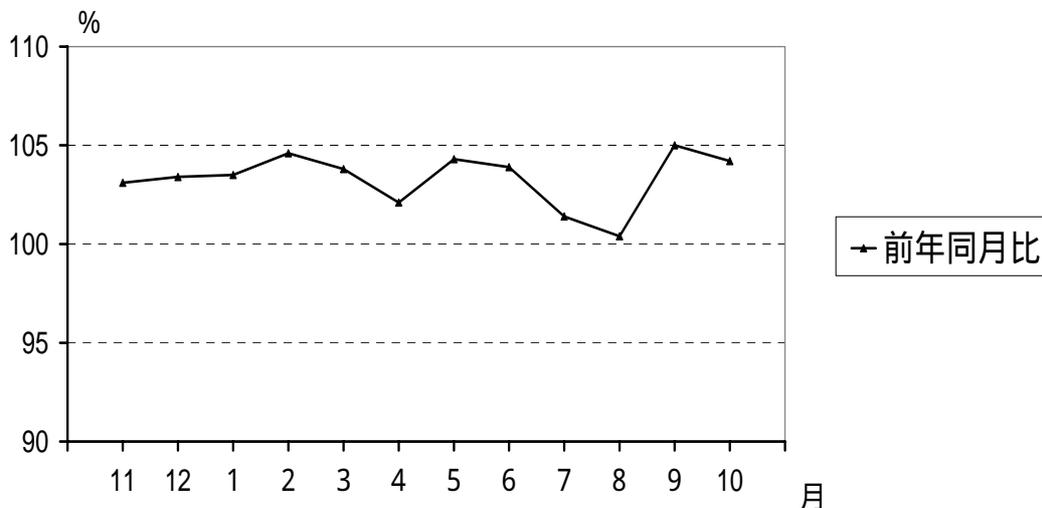
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、240,440 千個で、前月と比べ、約 254 万個増加したため、前月比 101.1% (季節調整済み 99.8%)、前年同月と比べると、約 976 万個増加したため、前年同月比 104.2%の実績であった。

(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数が増加したこともあり、全般的に貨物量が増加した。理由としては、主に工場・生産地からの貨物増と季節的需要増であった。また、日用品は、商社・問屋からの貨物増と倉庫から出る貨物増もあった。

地域的には、農水産品は東京、神奈川、北陸信越で、金属製品は神奈川、大阪、兵庫で、繊維工業品は神奈川、関東で、その他は中国を中心にそれぞれ増加した。また、機械、化学工業品、食料工業品、日用品においては全国的に増加した。

前年同月と比べると、全般的に貨物量が増加した。理由としては、主に工場・生産地からの貨物増であった。また、金属製品及び機械は、新規荷主獲得による増加が、機械及びその他は、景気の好況による増加が、化学工業品及び食料工業品は、倉庫から出る貨物増があった。

地域的には、農水産品が北陸信越で、日用品が大阪を中心にそれぞれ増加した。また、金属製品、機械、化学工業品、食料工業品及びその他は全国的に増加した。一方、繊維工業品及び日用品が関東で減少した。

この結果、全体としては、対前年同月比 103.7%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	3	3	10	1	1	米、野菜、青果物	東京、神奈川、北陸信越	4, 8
	金属製品		6	19	2		その他の金属製品	神奈川、大阪、兵庫	4, 8
	機械	1	8	17	1		その他の機械、機械部品	神奈川、関東、北陸信越、愛知、近畿地方、中国	4, 8
	化学工業品		10	18	2		その他の化学工業品	関東地方、中部地方、近畿地方、中国、四国	4, 8
	繊維工業品		4	24	1			神奈川、関東	
	食料工業品		8	15	4		その他の食料工業品	東京、神奈川、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 8
	日用品		10	16	3		書籍・印刷物、その他の日用品	関東地方、愛知、大阪、兵庫、中国、四国、九州	4,5,7,8
	その他	1	8	15	4		百貨店配送品 宅配便	中国	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	15	1			北陸信越	
	金属製品		6	20		1	その他の金属製品	関東地方、中部地方、近畿地方、中国	1, 4
	機械		11	15		1	その他の機械、機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	1, 4, 9
	化学工業品	1	8	19	2		その他の化学工業品	東京、関東、大阪、兵庫、中国、四国	4, 7
	繊維工業品		4	22	3			関東	
	食料工業品		8	17	2		飲料、その他の食料工業品	関東地方、愛知、近畿地方、中国、福岡	4, 7
	日用品		5	20	4		その他の日用品 書籍・印刷物	大阪 関東	4
	その他		9	15	4		百貨店配送品	愛知、大阪、兵庫、中国、全国	2, 4, 9

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 829 社 / 調査対象事業者数 1,068 社）の輸送量は、前月比 104.6%、前年同月比 101.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	104.6%	109.4%	106.8%	102.4%	104.2%	101.2%	99.5%	105.5%	98.7%	104.5%	99.7%
前年同月比	101.9%	100.2%	103.8%	104.0%	103.4%	99.4%	104.5%	104.1%	100.4%	102.3%	94.6%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比は 109.4%、対前年同月比は 100.2%であった。品目別には、ビートの収穫期を迎えたため「その他の農産品」が、建築・土木工事も順調に推移したため「砂利・砂・石材」、「セメント」が、その他「野菜・果物」、「木材」、「日用品」等の輸送量が増加した。一方、「水産品」、「食料工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 106.8%、対前年同月比 103.8%であった。品目別には、農作物の収穫等により「穀物」、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」の輸送量が増加した。その他「その他の窯業品」、「その他の石油製品」等の輸送量も増加した。一方、季節的な需要減により「野菜・果物」等が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 102.4%、前年同月比は 104.0%であった。品目別には、建設関係の需要増により「非鉄金属」の輸送量が増加し、その他「野菜・果物」、「化学肥料」、「輸送用容器」、「その他」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により、「食料工業品」、「日用品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
北陸 信越	<p>本月の輸送は、対前月比 104.2%、対前年同月比は 103.4%であった。品目別には、新米の流通により「穀物」の輸送量が増加し、その他「木材」、「鉄鋼」、「非鉄金属」、「揮発油」、「コークス・その他の石炭製品」、「取り合せ品」、「その他」等の輸送量も増加した。一方、「セメント」、「化学薬品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 101.2%、対前年同月比は 99.4%であった。品目別には、建設関係の需要増により「機械」が、その他「金属製品」、「セメント」、「その他の窯業品」、「紙・パルプ」、「食料工業品」、「廃棄物」、「輸送用容器」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により、「その他の農産品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 99.5%、対前年同月比は 104.5%であった。品目別には、「非鉄金属」、「金属製品」、「その他の窯業品」、「その他の化学工業品」、「紙・パルプ」、「繊維工業品」、「食料工業品」、「日用品」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、「その他の農産品」、「機械」、「その他の石油製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 105.5%、対前年同月比は 104.1%であった。品目別には、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」、「その他の窯業品」が、自動車・造船関連が好調なため「鉄鋼」、「その他の製造工業品」が、冬物家電の出荷が始まり「機械」が、宅配便の便数増により「取り合せ品」の輸送量が増加した。一方、目立って減少した品目はなかった。次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 98.7%、対前年同月比は 100.4%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の農産品」、「揮発油」、「紙・パルプ」の輸送量が増加し、その他「鉄鋼」、「日用品」、「その他」の輸送量も増加した。一方、「穀物」、「木材」、「石炭」、「機械」、「その他の製造工業品」、「輸送用容器」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 104.5%、対前年同月比は 102.3%であった。品目別には、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「機械」、「セメント」、「その他の窯業品」の輸送量が増加し、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」、「その他の農産品」、「動植物性飼・肥料」も増加した。一方、「水産品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 99.7%、対前年同月比は 94.6%であった。品目別には、建設関係の需要増により「木材」（大型店舗建設）、「金属製品」（鋼材）、「その他石油製品」（セメント混和剤）が、その他「穀物」、「水産品」（まぐろ）、「金属くず」、「取り合せ品」（引越荷物）の輸送量が増加した。一方、「野菜・果物」（ゴーヤー等）、「その他の農産物」（花卉）、「食料工業品」（ビール・飲料水）の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	9		3			1		3	1	18
	減		1						1	1		3
2. 野菜・果物	増	4		2	2				1	6		15
	減	2	2	1	1			1		3	1	11
3. その他の農産品	増	11							1	3		15
	減	2				2	1				1	6
4. 畜産品	増											
	減											
5. 水産品	増	1	2								1	4
	減	3	1							1		5
6. 木材	増	3	1		2			1		2	1	10
	減	1	1					2	1			5
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1						1				2
	減	1							1			2
9. 金属鉱物	増		1									1
	減			1								1
10. 砂利・砂・石材	増	9	4		1		1	4		4		23
	減	7					1	1		2		11
11. 工業用非金属鉱物	増				1							1
	減		1					1				2
12. 鉄鋼	増	1	2		2		1	4	1	6		17
	減	1					1	1				3
13. 非鉄金属	増			2	3		1	1				7
	減											
14. 金属製品	増		2		2	1	2	1		2	2	12
	減		2	1	2		1					6
15. 機械	増			2		3		4		3		12
	減	1		2				4	2	2	1	12
16. セメント	増	2				1		3		5		11
	減	1	1		1			2				5
17. その他の窯業品	増		2		1	2	1	3		4		13
	減									1		1

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	1	1		2				1	3
19. その他の石油製品	減											
	増	2	3		1			1			1	8
20. コークス・ その他の石炭製品	減											
	増	2			1		1	1				5
21. 化学薬品	減											
	増	1										1
22. 化学肥料	減				1							
	増		1	1							1	3
23. その他の化学工業品	減	1	2						1			4
	増						2	2				4
24. 紙・パルプ	減						1	1				
	増	1	1	1		1	1	1	2	3		11
25. 繊維工業品	減		1	1								
	増						1	1		1		3
26. 食料工業品	減					1						
	増	1	3		1	1	2	3	2	2	2	15
27. 日用品	減	3	3	2			1	2	2	2	1	16
	増	2				1	2	1	1	2		9
28. その他の製造工業品	減			2		1						3
	増						1	5		3		9
29. 金属くず	減			1				2	1			4
	増										1	1
30. その他のくずもの	減											
	増											
31. 動植物性飼・肥料	減	1								5		6
	増	2		1						2		5
32. 廃棄物	減	1				1				3		5
	増			1						3		4
33. 輸送用容器	減	1		1								2
	増							1	1			2
34. 取り合せ品	減		1		2			4			2	9
	増							1				1
35. その他	減			2	5		1	1	1	3		13
	増				2	1	1			1		5